

## 導入事例のご紹介



近年増えているデータ出力に対応できて  
ピンホールによる印刷ムダもない、  
まさに時代にマッチした製版機です

株式会社 三双

馬場 一憲 様

理想科学工業のスクリーン製版機を導入するまでは、タオル印刷のための製版は外注っていました。法人からの大量注文がほとんどで、タオルの端に印刷する小さなサイズが主流でした。ところが近年になって、より少ないロットの個人客からの注文が増え始めました。バスケットボールや草野球チームのオリジナルタオル、高校の体育祭用のクラスタオルなどです。それらは多くても20~40枚ほどの注文ですから、スクリーン印刷の製版さえできれば自社で印刷できます。当然、外注に出すよりも内製した方が利益が出ます。そこで当社は、暗室も薬品も使わずプリンター感覚で製版ができる理想科学工業のスクリーン製版機を早くから導入していました。

急ぎの注文に対応できるのも内製化した理由です。例えば、当社がある三河地方では建物の上棟式でタオルに餅を包んで振る舞う風習があり、鶴亀の絵柄と施主名を印刷した独特的なタオルを使います。若い施主はそんな風習を軽視しがちですが、式直前に親の

勧めで急にタオルの印刷が決まることがしばしば。そういう注文は、納期が3日後ということも珍しくありません。また、高校野球の校名入りの応援タオルは、予選のトーナメントを勝ち進むたびに急ぎの追加注文があります。

このように、法人から個人へ、大量から少ロットへ、納期はより短く……という名入れタオル需要の変化に対して、理想科学工業のスクリーン製版機を使った内製化は時代にマッチしていました。

#### タオル全面の大判印刷がトレンド ゴッコプロ100なら長尺の製版もできる

その理想科学工業から新しくデジタルのスクリーン製版機「ゴッコプロ100」が発売されたと聞いてすぐに導入しました。

ゴッコプロ100が優れているのは、パソコンのデータをそのまま製版できる点です。今までの製版機は、パソコンで作ったデータをいったん紙に印刷してから製版するので、紙の不純物やスキャナーの汚れなどでどうしてもピンホールが出てしまい、タオルの印刷口に頭を悩ませていました。しかしゴッコプロ100ならデータから直接製版するので、ピンホールによるムダから解放されました。

パソコンで作った原稿の持ち込みも増えています。



創業者の馬場 司社長が開発した8色が刷れる自動スクリーン印刷機。

#### CORPORATE PROFILE

株式会社三双

〒441-8085 愛知県豊橋市青竹町青竹84  
Tel:0532-31-1712 Fax:0532-32-7197  
URL <http://www.sanso-jp.com>



既製の絵柄入りタオルに社名を印刷するのが一般的な名入れタオル(①)。  
最近はスポーツ応援用やクラスタオルとして細長いマフラータオルも人気(⑤)。

#### 名入れタオル



①は地元のお祭、⑤は草野球チームからの注文で作成。素材は綿100%のスレン織り。70メッシュのスクリーンマスターを使用。

#### 導入の決め手

- ① データ入稿のお客に対応できる。
- ② データ原稿をそのまま製版するので、ピンホールによるロスの心配がない。
- ③ 最長120cm\*まで出力できるので、長尺ものの製版も内製できる。

3~4割はそういったデータ入稿のお客様ですから、パソコンから製版できるゴッコプロ100はまさに時代にマッチした製版機と言えるでしょう。

タオル全面に大きく印刷するデザインが好まれるようになつたのも近年の需要の変化です。今やクラスタオルやスポーツチームからの注文はほとんどがこの大判の印刷です。大きくて目立ち、見栄えが良いからでしょう。われわれ業者側も、印刷代の利益が大きくなるので消費者と業者、両方に嬉しいトレンドだと思います。以前の製版機ではA3サイズが最大だったのと、長尺印刷はやむを得ず外注していましたが、ゴッコプロ100なら最長で120cm\*の長尺の版が出力できるので、長尺印刷も内製可能。納期、利益の両面でゴッコプロ100は貢献しています。今後はゴッコプロ100を活用して、Tシャツなどの他の製品にも挑戦していくたいですね。

\*製版面積は最大800×297mm。

*karatsuka.*



#### オリジナルタオル

④は地元のお祭、⑤は草野球チームからの注文で作成。素材は綿100%のスレン織り。70メッシュのスクリーンマスターを使用。

- 昭和40年に織維問屋から独立した織維卸会社。販売だけでなく、自社のスクリーン印刷設備を使った名入れ印刷をはじめ、染色や刺繍などによるオリジナルタオルを提供する。
- スポーツやイベント、体育祭用のクラ

タオル、上棟式における配布用など様々なオリジナルタオルをデザインから手がける。最大8色が刷れる自動スクリーン印刷機を先がけて開発したほか、生地や名入れ方法などに精通するタオルのプロフェッショナル企業。